

【別紙様式3】

再 評 価 実 施 事 業 調 書

番 号	5	事業名	東金市公共下水道事業		路線又は箇所名等		東金処理区		
事業所管課		下水道課			事業主体		東金市		
事業化年度	昭和49年	用地着手年度	昭和53年		工事着手年度	昭和50年	再評価の理由	再評価実施後一定期間を経過したため	
					工事終了年度	平成50年			
費用便益比 B/C	1.4	総費用	810 億円	総便益	1,124 億円	基準年	平成20年	供用開始 年 度	昭和59年

【事業概要】

項目	全体計画(目標年次:H27)	事業計画(完成予定年次:H20)	現況(H20)
処理区域面積	1,450ha	903ha	768ha
処理人口	49,000人	30,530人	24,827人
汚水終末処理場の処理能力	28,200m <sup>3</sup> /日	18,800m <sup>3</sup> /日	14,100m <sup>3</sup> /日
事業費	470億円	319億円	271億円

【事業の進捗状況】

指 標	状 況
事業の進捗状況	平成20年度までの整備面積は、事業計画903haに対して、768haを整備し、整備率は85%である。
処理場用地の取得状況	全用地を取得済である。
処理施設の供用状況	事業計画の処理能力18,800m <sup>3</sup> /日に対して、14,100m <sup>3</sup> /日を整備し、整備率は75%である。
供用開始区域の接続状況	接続率86.7%である。
地元情勢等	市議会及び地元住民の理解・協力は得られている。

【社会経済情勢等】

指 標	状 況
社会経済情勢	圏央道が一部供用開始されているものの、下水道計画に見込んでいるため、下水道事業に影響のある大きな社会経済情勢の変化は特にない。
自然環境条件	河川に定められている水質環境基準に変更はない。
計画変更の有無及びその程度	全体計画及び事業計画について、必要に応じ適切に見直している。

【コスト縮減・代替案】

指 標	状 況
コスト縮減	アスファルト合材・路盤碎石等再生資材の利用によりコスト縮減に努めている。
代替案	当市の市街化の状況から、代替としての浄化槽より下水道が適している。

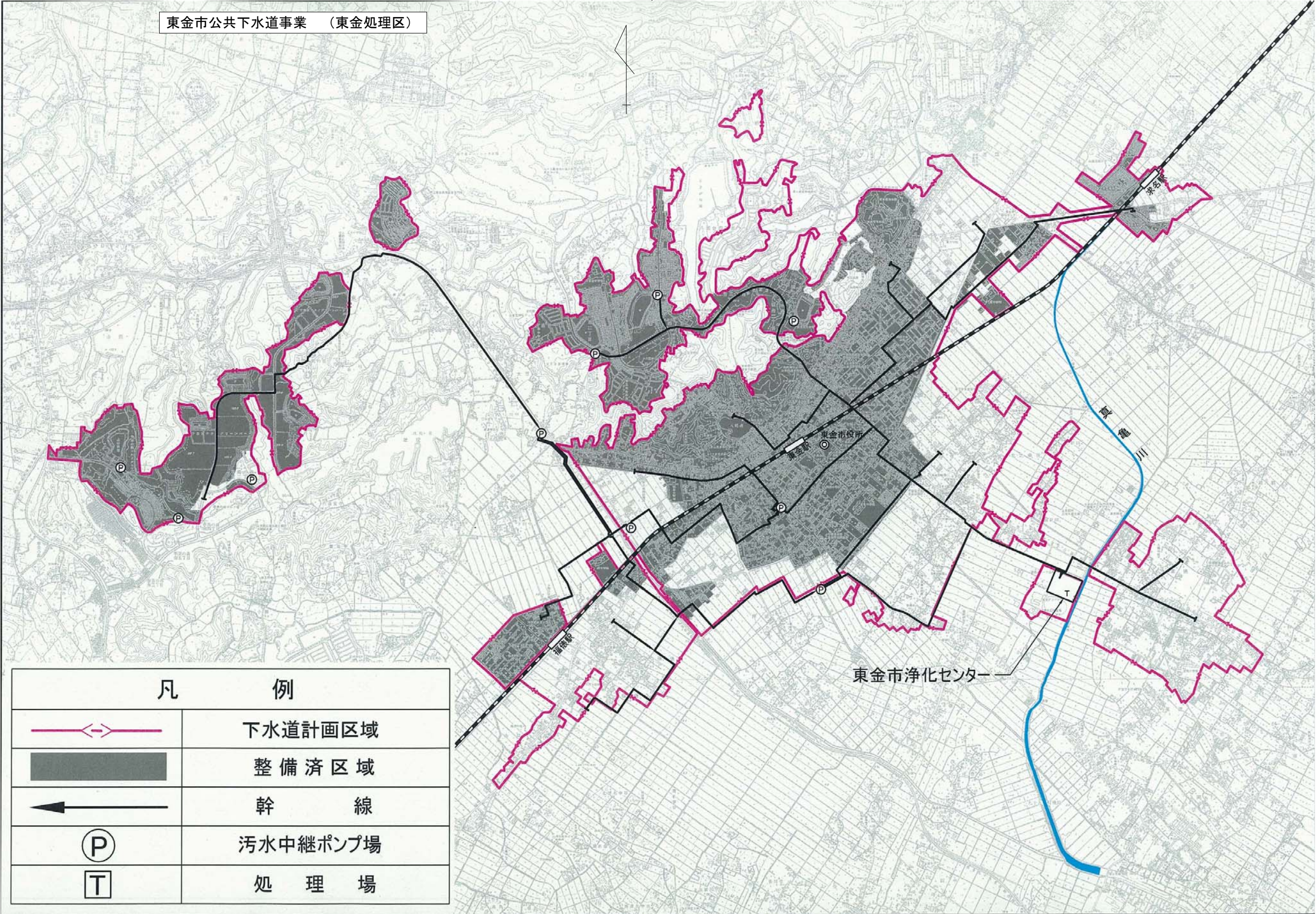
【対応方針(案)】

東金市公共下水道事業は順調に進展しており、今後も順調な進展が見込まれることから、当事業を継続する方針です。



事業概要図					
番号	5	事業名	東金市公共下水道事業	路線又は箇所名等	東金処理区

東金市公共下水道事業 (東金処理区)



凡 例	
	下水道計画区域
	整備済区域
	幹 線
	汚水中継ポンプ場
	処 理 場



【別紙様式5】

再々評価事業に関する調書

番号	5	事業名	東金市公共下水道事業	路線又は箇所名等	東金処理区	
事業化年度	昭和49年	用地着手年度	昭和53年	工事着手年度	昭和50年	
【再評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成10年	供用開始 年度	昭和59年	対応方針	継続	
B/C	—	総費用	—	総便益	—	
再評価時の委員会の意見及び当時の状況 事業の継続が妥当とのご意見をいただいた。						
再評価時の進捗状況						
		計 画	進捗状況			
全体事業費		320億円	215億円			
用地取得面積		4.41ha	4.41ha			
供用面積(延長)		950ha	549ha			
【再々評価の概要】						
再評価実施年度 (基準年)	平成20年	供用開始 年度	昭和59年	対応方針	継続	
B/C	1.4	総費用	810 億円	総便益	1,124 億円	
現在の進捗状況						
		計 画	進捗状況			
全体事業費		470億円	271億円			
用地取得面積		4.41ha	4.41ha			
供用面積(延長)		1,450ha	768ha			
再評価後の 経過及び 処理状況	再評価時から現在に至るまで、概ね順調に事業が進展している。					